

# AWS上での監視サーバー(Zabbix)構築【3.AWSのRDS作成】

AWS



## AWS上での監視サーバー(Zabbix)構築【3.AWSのRDS作成】

2021.09.03 2021.09.02

監視サーバーをAWS上で構築し、CML上のネットワーク機器/サーバーを監視します。監視ソフトウェアはZabbixを利用します。

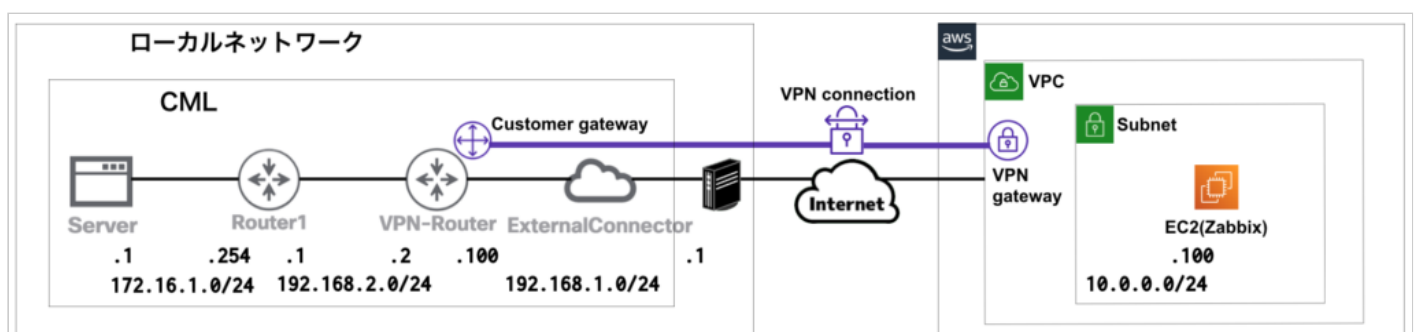
[【前回】AWS上での監視サーバー\(Zabbix\)構築【2.AWSのEC2構築】](#)

[【次回】AWS上での監視サーバー\(Zabbix\)構築【4.Zabbixのインストールと設定】](#)

## ネットワーク構成

下記のネットワーク環境を構築し、AWS上のEC2(Zabbixサーバー)から、CML上のネットワーク機器/サーバーを監視できるようにしていきます。

[【参考】AWSサイト間VPNの構築（1.AWSの基本設定）](#)



# AWSのRDS構築

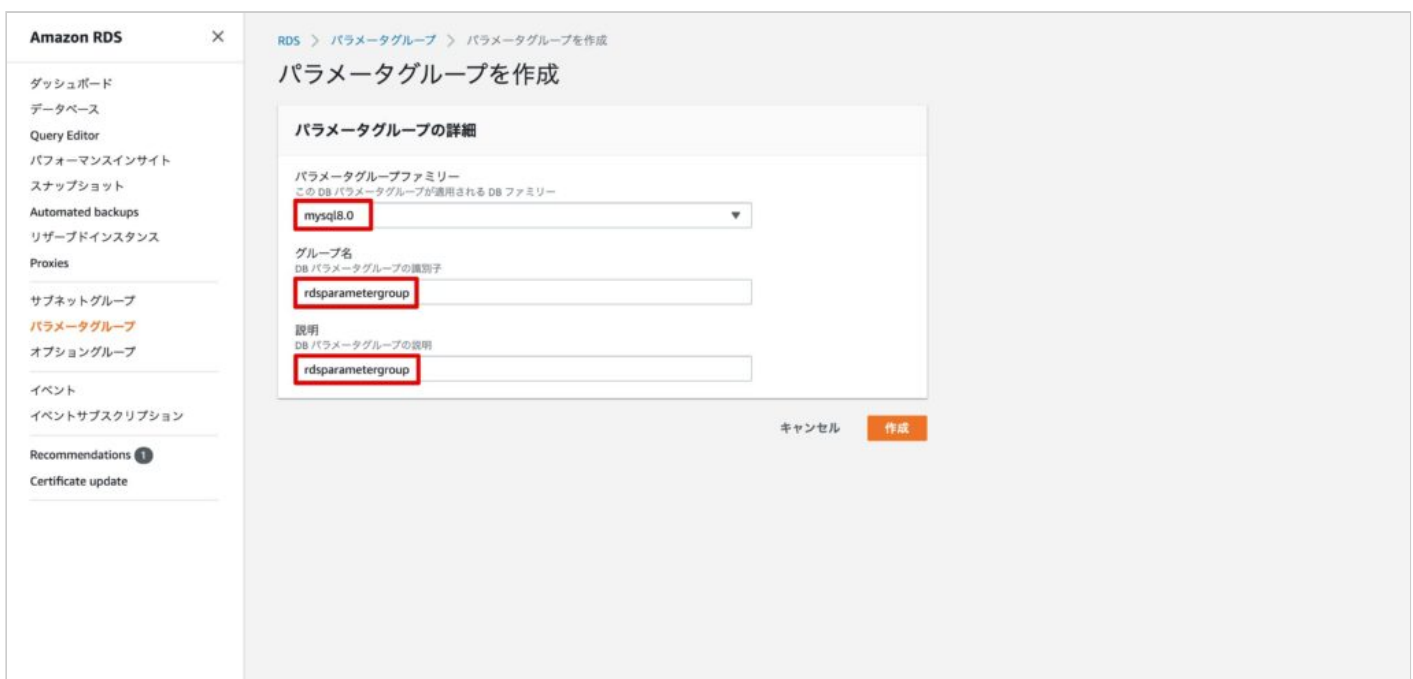
## パラメータグループの作成

MySQL8.0以上では、デフォルトの設定ではZabbixが動作しないため、RDSを適用するパラメータグループを作成します。

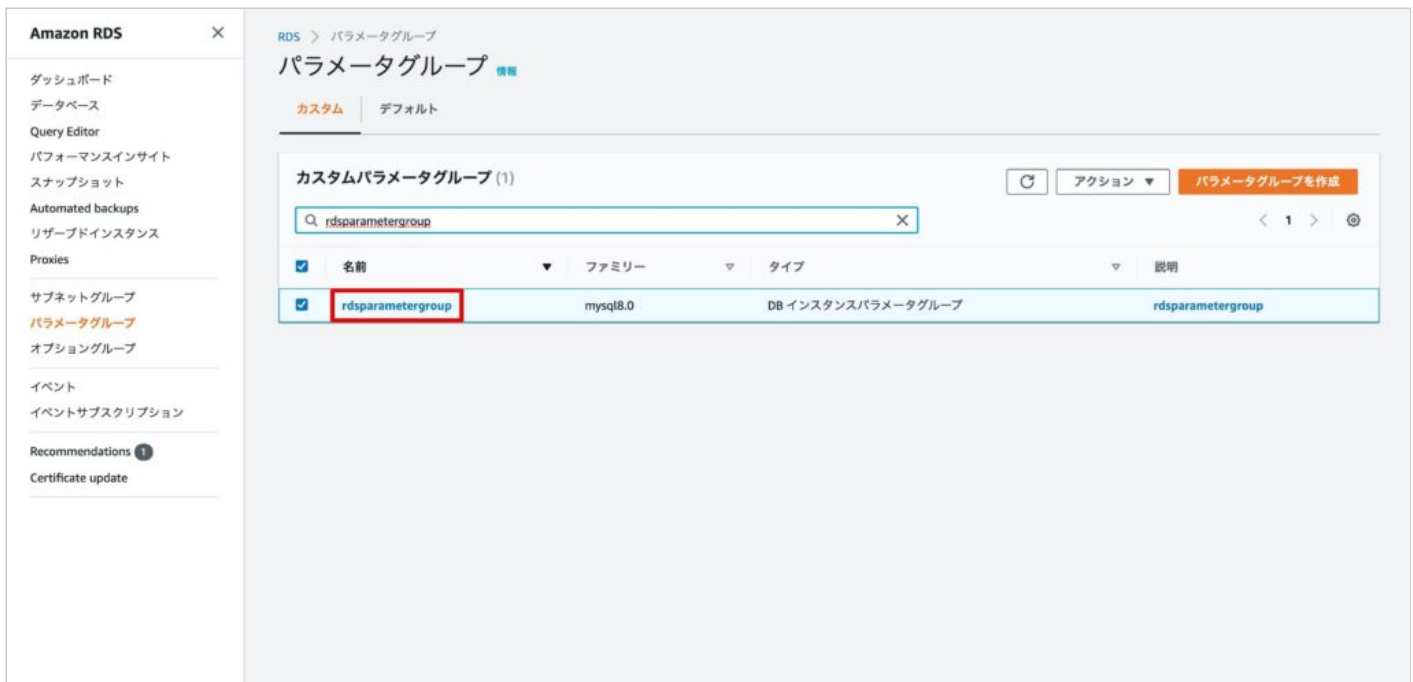
RDSの画面から、「パラメータグループを作成」をクリックします。



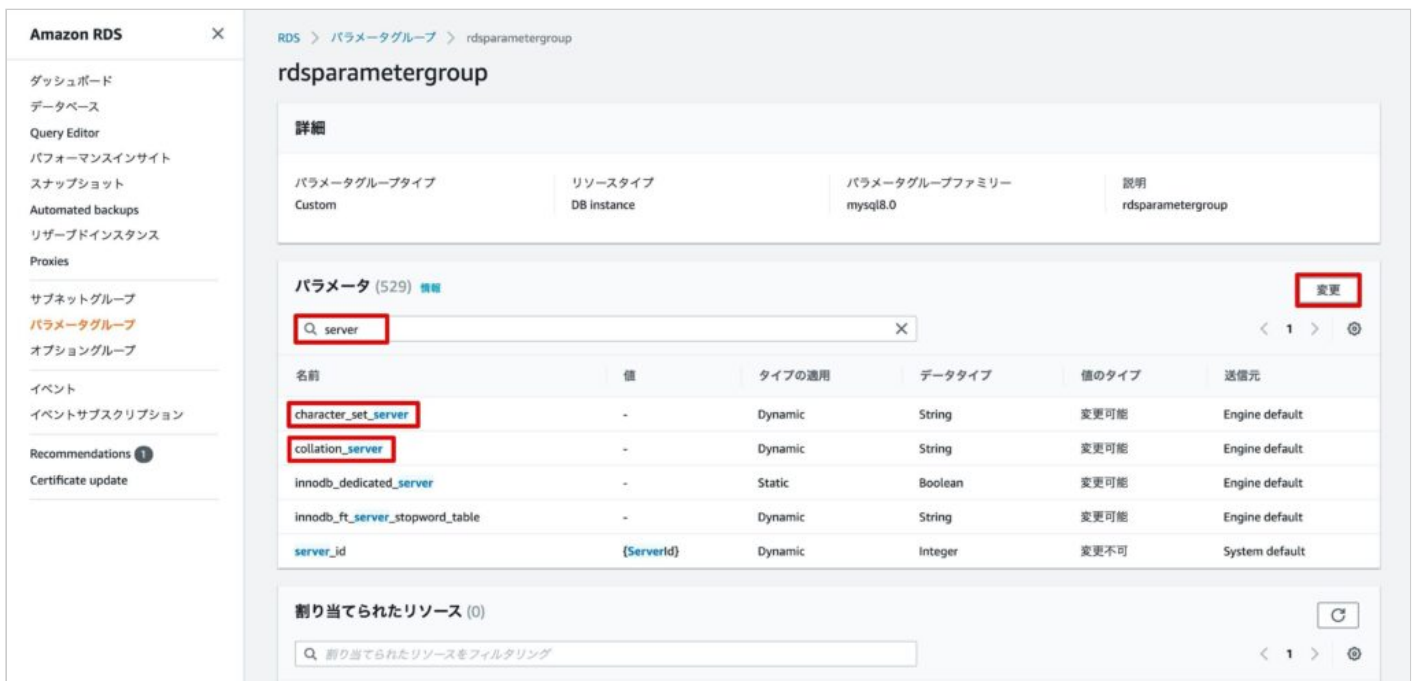
パラメータグループファミリーは、「mysql8.0」を選択します。グループ名/説明は、「rdsparmetergroup」としています。



作成したパラメータグループをクリックします。

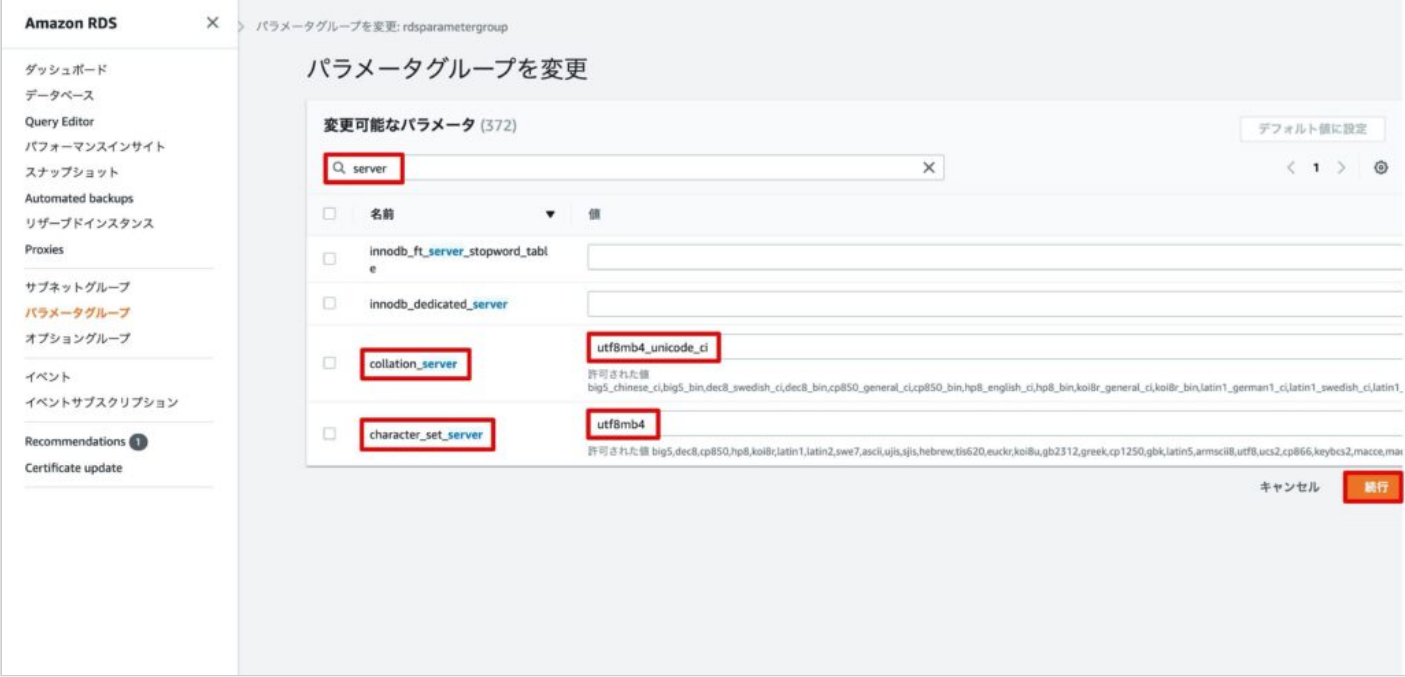


検索窓に"server"と入力し、「character\_set\_server」と「collation\_server」が表示されることを確認し、「変更」をクリックします。



下記の通りに値を入力し、「続行」をクリックします。

```
character_set_server : utf8mb4
collation_server : utf8mb4_unicode_ci
```



変更内容を確認し、「変更を適用」をクリックします。



パラメータグループが作成されたことを確認します。

Amazon RDS

RDS > パラメータグループ > rdsparmetergroup

### rdsparmetergroup

詳細

パラメータグループタイプ	リソースタイプ	パラメータグループファミリー	説明
Custom	DB instance	mysql8.0	rdsparmetergroup

パラメータ (529) 情報

Q server

名前	値	タイプの適用	データタイプ	値のタイプ	送信元
character_set_server	utf8mb4	Dynamic	String	変更可能	Modified
collation_server	utf8mb4_unicode_ci	Dynamic	String	変更可能	Modified
innodb_dedicated_server	-	Static	Boolean	変更可能	Engine default
innodb_ft_server_stopword_table	-	Dynamic	String	変更可能	Engine default
server_id	{Serverid}	Dynamic	Integer	変更不可	System default

割り当てられたリソース (0)

Q 割り当てられたリソースをフィルタリング

## RDSの作成

RDSの画面から、「データベースの作成」をクリックします。

Amazon RDS

RDS > データベース

### データベース

グループリソース

Q

DB 識別子

ロール

エンジン

リージョンと AZ

サイズ

ステータス

CPU

現在のアクティビティ

インスタンス は存在しません

データベースの作成

作成方法は、「標準作成」を選択します。

≡

RDS > データベースの作成

## データベースの作成

データベース作成方法を選択 情報

☒ 標準作成  
可用性、セキュリティ、バックアップ、メンテナンスといったすべての設定オプションを設定します。

☐ 簡単に作成  
推奨されるベストプラクティス設定を使用します。一部の設定オプションは、データベースの作成後に変更できません。


エンジンのタイプは、「MySQL」を選択します。

≡

## エンジンのオプション


エンジンのタイプ 情報


☐ Amazon Aurora  


☒ MySQL  


☐ MariaDB  



☐ PostgreSQL  


☐ Oracle  


☐ Microsoft SQL Server  


エディション

☒ MySQL Community

**既知の問題と制限**  
特定のデータベースバージョンの潜在的な互換性の問題については、[既知の問題と制限](#)  をご確認ください。

バージョン

MySQL 8.0.23 ▼

テンプレートは、「無料利用枠」を選択します。

テンプレート

お客様のユースケースに合わせてサンプルテンプレートを選択します。

<input type="radio"/> 本番稼働用 高い可用性と、高速で安定したパフォーマンスのためには、デフォルト値を使用します。	<input type="radio"/> 開発/テスト このインスタンスは本番稼働環境ではない開発で使います。	<input checked="" type="radio"/> 無料利用枠 RDS 無料利用枠を利用すると、新しいアプリケーションの開発、既存のアプリケーションのテスト、Amazon RDS の実践経験の蓄積が可能です。 <a href="#">情報</a>
---	---	---

インスタンス識別子は、「zabbix-database-1」としています。  
マスターユーザ名とマスターパスワードを入力します。

設定

DB インスタンス識別子 [情報](#)  
DB インスタンスの名前を入力します。この名前は、AWS アカウントが現在の AWS リージョンで所有しているすべての DB インスタンスにおいて一意である必要があります。

**zabbix-database-1**

DB インスタンス識別子は大文字と小文字の区別がありませんが、すべて小文字で保存されます (例: "mydbinstance")。制約事項: 1～60 文字の英数字またはハイフン。1 字目は文字である必要があります。連続する 2 つのハイフンを含めることはできません。ハイフンで終わることはできません。

▼ 認証情報の設定

マスターユーザー名 [情報](#)  
DB インスタンスのマスターユーザーのログイン ID を入力します。

**admin**

1～16 文字の英数字。1 字目は文字である必要があります

☐ パスワードの自動生成  
Amazon RDS がパスワードを生成するか、お客様がご自身でパスワードを指定することができます

マスターパスワード [情報](#)  
.....

制約事項: 表示可能な ASCII 文字で 8 文字以上で入力してください次の文字を含めることはできません: / (スラッシュ)、' (単一引用符)、" (二重引用符)、および @ (アットマーク)。

パスワードを確認 [情報](#)  
.....

無料利用枠を利用する場合は、「db.t2.micro」が選択されます。



**DB インスタンスクラス**

DB インスタンスクラス [情報](#)

- 標準クラス (m クラスを含む)
- メモリ最適化クラス (r クラスと x クラスを含む)
- **バースト可能クラス (t クラスを含む)**

**db.t2.micro**  
1 vCPUs 1 GiB RAM Not EBS Optimized ▼

☐ 以前の世代のクラスを含める

検証用のため、「ストレージの自動スケーリングを有効にする」のチェックを外します。

**ストレージ**

ストレージタイプ [情報](#)

汎用 (SSD) ▼

ストレージ割り当て

20 GiB

(最小: 20 GiB、最大: 16,384 GiB) より高い割り当て済みストレージは、IOPS のパフォーマンスを改善する場合があります。

**ストレージの自動スケーリング** [情報](#)

アプリケーションのニーズに基づいて、データベースのストレージに対する動的なスケーリングのサポートを提供します。

☐ **ストレージの自動スケーリングを有効にする**

この機能を有効にすると、指定したしきい値を超えた場合にストレージを増やすことができます。

作成したVPC(aws-zabbix-test)を選択します。



三

接続

Virtual Private Cloud (VPC) 情報

この DB インスタンスの仮想ネットワーク環境を定義する VPC。

aws-zabbix-test (vpc- )

対応する DB サブネットグループがある VPC のみが表示されます。

データベースの作成後に、VPC の選択を変更することはできません。

サブネットグループ 情報

選択した VPC で DB インスタンスが使用できるサブネットと IP 範囲を定義する DB サブネットグループ。

新しい DB サブネットグループの作成

パブリックアクセス 情報

☐ あり

VPC 外部の Amazon EC2 インスタンスとデバイスがお客様のデータベースに接続できます。データベースに接続できる VPC 内の EC2 インスタンスおよびデバイスを指定する 1 つ以上の VPC セキュリティグループを選択します。

☒ なし

RDS はパブリック IP アドレスをデータベースに割り当てません。VPC 内部の Amazon EC2 インスタンスとデバイスのみをお客様のデータベースに接続できます。

セキュリティグループは、「既存の選択」を選択し、作成したセキュリティグループ(zabbix-sg)を選択します。

VPC セキュリティグループ

データベースへのアクセスを許可する VPC セキュリティグループを選択します。セキュリティグループのルールで適切な着信トラフィックが許可されていることを確認します。

☒ 既存の選択

既存の VPC セキュリティグループの選択

☐ 新規作成

新しい VPC セキュリティグループの作成

既存の VPC セキュリティグループ

VPC セキュリティグループを選択します

zabbix-sg X

データベース認証は、「パスワード認証」を選択します。

データベース認証

データベース認証オプション 情報

☒ パスワード認証  
データベースのパスワードを使用して認証します。

☐ パスワードと IAM データベース認証  
AWS IAM ユーザーとロールを介して、データベースパスワードとユーザー認証情報を使用して認証します。

☐ パスワードと Kerberos 認証  
承認されたユーザーに、Kerberos 認証を使ってこの DB インスタンスで認証を行うことを許可するディレクトリを選択します。

追加設定を展開し、DBパラメータグループで、“rdsparmetergroup”を選択します。

aws サービス

サービス、機能、マーケットプレースの製品、ドキュメント

▼ 追加設定  
データベースオプション、バックアップが有効、バックトラックが無効、拡張モニタリングが無効、メンテナンス、CloudWatch Logs、削除保護が無効

データベースの選択肢

最初のデータベース名 情報

データベース名を指定しないと、Amazon RDS はデータベースを作成しません。

DB パラメータグループ 情報

rdsparmetergroup ▼

オプショングループ 情報

default:mysql-8-0 ▼

バックアップ

☒ 自動バックアップを有効にします  
データベースのポイントインタイムスナップショットを作成します

**⚠** 自動バックアップは現在 InnoDB ストレージエンジンでのみサポートされていることに注意してください。MyISAM を使用している場合、詳細については[こちら](#)を参照してください。

バックアップ保持期間 情報

このインスタンスの自動バックアップを RDS が保存する日数を選択します。

7 日間 ▼

バックアップウィンドウ 情報

Amazon RDS によって作成されるデータベースの自動バックアップの期間を選択します。

☐ 選択ウィンドウ

☒ 設定なし

「データベースの作成」をクリックします。

aws

サービス ▼

Q サービス、機能、マーケットプレースの製品、ドキュメント

三

マイナーバージョン自動アップグレード **情報**

☒ **マイナーバージョン自動アップグレードの有効化**  
マイナーバージョン自動アップグレードを有効にすると、新しいマイナーバージョンがリリースされたときに自動的にアップグレードされます。自動アップグレードは、データベースのメンテナンスウィンドウに行われます。

**メンテナンスウィンドウ **情報****  
Amazon RDS によってデータベースに適用されている保留中の変更またはメンテナンスの期間を選択します。  
☐ 選択ウィンドウ  
☒ 設定なし

**削除保護**  
☐ **削除保護の有効化**  
データベースが誤って削除されるのを防ぎます。このオプションが有効になっている場合、データベースを削除することはできません。

**概算月間コスト**

Amazon RDS 無料利用枠は、12 か月間利用できます。無料利用枠では毎月、下記の Amazon RDS リソースを無料で使用できます。

- Amazon RDS による db.t2.micro インスタンスのシングル AZ における 750 時間使用。
- 20 GB の汎用ストレージ (SSD)。
- 自動化されたバックアップ用の 20 GB のストレージ、およびユーザー起動による任意の DB スナップショット。

**AWS 無料利用枠の詳細は、[こちらを参照してください。](#)**

無料利用枠の有効期限が切れた場合、またはアプリケーション使用量が無料利用枠を超えた場合は、[Amazon RDS の料金ページ](#) で説明されているように、標準の従量課金制でお支払いいただきます。

**i** お客様は、AWS のサービスで使用するサードパーティーの製品やサービスについて、必要なすべての権利を保有していることを確認する責任があります。

キャンセル

**データベースの作成**

下記のエラーが表示された場合は、[こちらの手順](#)を参考にサブネットを複数アベイラビリティゾーンに作成してください。



ご指定になった DB インスタンス [REDACTED] の作成リクエストは実行されませんでした。



DB Subnet Group doesn't meet availability zone coverage requirement. Please add subnets to cover at least 2 availability zones. Current coverage: 1 (Service: AmazonRDS; Status Code: 400; Error Code: DBSubnetGroupDoesNotCoverEnoughAZs; Request ID: [REDACTED]; Proxy: null)

ご指定になった DB インスタンス xxxxxxxx の作成リクエストは実行されませんでした。  
DB Subnet Group doesn't meet availability zone coverage requirement. Please add subnets to cover at least 2 availability zones. Current coverage: 1 (Service: AmazonRDS; Status Code: 400; Error Code: DBSubnetGroupDoesNotCoverEnoughAZs; Request ID: xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxxx; Proxy: null)

ステータスが、「利用可能」となることを確認します。※数分かかります。

The screenshot shows the Amazon RDS console interface. On the left is a navigation menu with options like 'ダッシュボード', 'データベース', 'Query Editor', etc. The main panel is titled 'データベース' and contains a table of database instances. The table has columns for 'DB 識別子', 'ロール', 'エンジン', 'リージョンと AZ', 'サイズ', 'ステータス', and 'CPU'. One instance, 'zabbix-database-1', is listed with the status '利用可能' (Available), which is highlighted with a red box. The CPU usage is shown as 4.17%.

DB 識別子	ロール	エンジン	リージョンと AZ	サイズ	ステータス	CPU
zabbix-database-1	インスタンス	MySQL Community	ap-northeast-1c	db.t2.micro	利用可能	4.17%

これで、AWS上での監視サーバー(Zabbix)構築【3.AWSのRDS作成】の説明は完了です！